

○「過疎高齢化が進む集落の調査・振興会役員と対応協議」

(京都府南丹市南丹地区(地域再生)連絡会議)(第2回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年8月1日午後5時~10時
- 場 所: 美山町鶴ヶ岡現地、旧鶴ヶ岡小学校会議室
- 出席者: 農業委員5人 最適化推進委員4人
鶴ヶ岡振興会役員 9名
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稻作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。
○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、地域資源を活用しながら特産物の開発や育成することが重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 美山町鶴ヶ岡(18集落)全体を対象に検討、議論は困難であるため、集落を絞って議論が必要
- 振興会役員と協議する前に、担当委員の案内により現地調査を実施(農地利用状況や地域資源の把握)
- 美山町鶴ヶ岡(18集落の農家組合アンケート結果の報告を受け、対応を協議)
- アンケート結果の報告を受けて美山町鶴ヶ岡(18集落のうち5集落)の意向を確認
- 5集落の農地の維持や農業生産、体制等振興会と協議

4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援